

ハイドンの ロンドン精神

Vol.6

クラウス
交響曲ハ短調VB142

F.J.ハイドン
交響曲第103番 変ホ長調 Hob.I:103 「太鼓連打」

F.J.ハイドン
交響曲第104番 ニ長調 Hob.I:104 「ロンドン」

指揮 / 角田鋼亮
(音楽監督)

©Makoto Kamiya

2025年12月4日(木) 18:45開演
(18:00開場)
[18:25～ 指揮者 角田鋼亮プレトークあり]

ザコンサートホール
名古屋・伏見・電気文化会館

TEL.052-204-1133 名古屋市中区栄2-2-5(地下鉄「伏見」駅より徒歩2分)

入場料(全指定席) 一般 4,000円 / U25 1,000円

※未就学児入場不可 ※U25は公演当日25歳以下対象、入場時要証明書
※やむを得ない事情で公演の中止または演奏曲目・曲順が変更になる場合がございます。

発売日 一般9/10(水) [会員先行9/8.9]

※当団会員様は会員先行発売・会員割引価格でのご購入が可能です。(当団事務局・チケットシステムでの購入時)

チケット
取り扱い

- ・セントラル愛知交響楽団 TEL.052-581-3851
- ・愛知芸術文化センタープレイガイド TEL.052-972-0430

お申込み
お問合せ

セントラル愛知交響楽団 TEL.052-581-3851
(10:00～17:30/土日祝休)

ホームページからお申込みいただけます。
<https://www.caso.jp>



主催 / 公益社団法人セントラル愛知交響楽団 後援 / 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会 助成 / 公益財団法人アフィニス文化財団



ハイドンの ロンドン精神

Vol.6

ハイドンの「ロンドン精神」も、ついに最終回となりました。ここまで一緒に旅をしてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

今回取り上げるのは、交響曲第103番《太鼓連打》と第104番《ロンドン》。どちらもハイドンらしいチャーミングなメロディに加えて、晩年ならではのスケールの大きさ、そして次の時代を予感させるエネルギーが詰まっています。世界中の人に愛され続けている理由を、きっと感じていただけたと思います。そして、もうひとつの注目はクラウスの交響曲ハ短調。私が長らく取り上げたいと思っていた作品で、今回ご紹介できる事を嬉しく思います。ハイドンに献呈された作品ですが、どこか「走り抜ける悲しみ」のような雰囲気があって、和声の運びもとても繊細です。クラウス独自のセンスが光ります。

シリーズはこれで一区切りですが、ハイドンの音楽はこれからいろいろな形で続いていきます。今後のセントラル愛知交響楽団の活動にもご期待下さい。

それでは、皆さんと一緒にゴールテープを切れますように。会場でお待ちしています！

セントラル愛知交響楽団音楽監督 角田 鋼亮

『ハイドンのロンドン精神』では、豊富な音楽構成と管弦楽としての響きが充実したハイドンの名曲の中から、交響曲確立期と言われた晩年の「ザロモン・セット」(全12曲)に焦点を当て、同時期に活躍した作曲家の交響曲も取り上げています(全6回)。

[指揮] 角田鋼亮 (音楽監督) Kosuke Tsunoda

東海高校卒業後、東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。2010年、第3回マーラー指揮コンクールにおいて最終の6人に残った。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ブランデンブルグ交響楽団、上海歌劇院管弦楽団、NHK交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団など主要オーケストラと共演している。2016年「第11回名古屋ペンクラブ音楽賞」、2020年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市文化振興事業団第36回芸術創造賞」を受賞。2015年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を、2019年より常任指揮者を務める。2016-2020年大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者、2018-2022年仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者を歴任するなど、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として各地にて活躍の場を拡げている。セントラル愛知交響楽団音楽監督を務めている。

セントラル愛知交響楽団 Central Aichi Symphony Orchestra

1983年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。1997年に現名称に改名。2021年4月に愛知県より認定を受け公益社団法人となる。2023年創立40周年。2024年4月から名古屋出身の角田鋼亮が音楽監督に就任。名誉音楽監督にレオシュ・スワロフスキー、桂冠指揮者に小松長生、特別客演指揮者に松尾葉子、首席客演指揮者に齊藤一郎、正指揮者に古谷誠一を擁し活動を行う。

定期演奏会、第九の他、「超!有名曲」「Wコンチェルト」等のシリーズを自主公演として展開。バレエ、オペラ等の依頼公演にも数多く出演。独自の構成によるプログラム、幅広いレパートリーを生かした学校公演、演奏者と聴衆の距離を縮めるような室内楽公演にも積極的に取り組んでいる。海外(2007年中国・2009年タイ・2017年韓国)でも公演し成功を収める。

